

[表題] 探究Ⅰ ミニ課題研究のチェック・ポイント

[記事]

夏季休業明けのミニ課題研究再開に向けて、7月16日に話し合ったことについて確認するためのガイド・ラインを用意しました。

各班の進み具合はまちまちだと思います。時間に余裕があるときなど、それぞれの班で進んでいる段階まで、各自で確認しておく9月からの探究活動がより充実したものになるのではないかと思います。これからの活動内容を確認する意味でも、ぜひ一読しておいてもらいたいと思います。もっとも、9月からのミニ課題研究本格始動に向けて少しでも作業を進めておいた方がいいかなと思っている人は、このガイド・ラインに沿って考えておいてもらってかまいません。

■ 探究活動の流れとチェック・ポイント

I 班で取り組むテーマ（SDGsの目標）を決め、それに関して具体的に考えてみたい事柄（リサーチ・クエスチョン）を検討する。

例：テーマ（目標）「住み続けられるまちづくりを」

⇒リサーチ・クエスチョン「誰もが安全かつ利用が容易な公共空間へのアクセスを考える」

II Iのテーマ（目標）・調べてみたい事柄（リサーチ・クエスチョン）の実現を阻んでいる《問題》は何かを考える。

例：「障害者や高齢者などが安全に利用できる道路整備の不備」「中心部と郊外を結ぶ公共交通機関網の偏り」など（この例もまた、さらにより具体的なものへと分割できるはずです。たとえば前者であれば、「公共施設周辺や商業地区における車椅子やベビーカーが安全かつ容易にすれ違うことができない歩道幅」などといった具合です。）

I・IIのチェック・ポイント

※ 具体的に調べてみたい事柄は自分たちで調査可能なものか、改めて検討してみましょう。

※ 調べてみたい事柄や《問題》があまりにも抽象的で漠然としたもの（たとえば「住みやすい居住環境とはどういうものか」）になっていて、あまりにもたくさんのことを調べることにならないか。

テーマが抽象的で漠然としすぎている場合は、次の方法などで手頃な問題に置き換えます。

- ・ 最初の抽象的なテーマから関連するキーワードを次々と挙げて具体化していく方法（マインドマッピング）
- ・ 最初のテーマを要素に分解し、その要素をさらに分解する方法（ロジックツリー）
- ・ 14個の質問パターンに沿って順番に一つのテーマについて浮かんだ「問い」を書いていく方法（ピリヤード法）

関連キーワードが思い浮かばない場合は、テーマに関する本の目次や索引、あるいはWikipediaの関連項目・関連カテゴリーなども参考にするとよいでしょう。

※ あまりにも主観的・個人的な関心に偏り、公共性・普遍性を欠いていないか。

※ 調べてみたい事柄や《問題》がどうしても思い浮かばない場合は、先行研究や世論調査などを調べて、そこで示されていることが本当にそうなのか、自分たちの身近なところでも同じように言えるのか、といったことから考えていくとよいヒントが見つかるかもしれません。

### Ⅲ Ⅱの《問題》の原因は何か、あるいは、どんな法則性によるものか、考える（《仮説》を立てる）。

#### 《仮説》のチェック・ポイント

※ 「〇〇という問題の原因は△△である」「〇〇という問題の背後には△△という法則性がある」といった見通しが、いわゆる《仮説》です。

その《仮説》以外に、他の要因がからんでいないか、その《仮説》が成り立つためにはどのような条件が必要か、あるいはまた、他の《仮説》が成り立つ可能性はないか、じっくり検討しましょう。

### Ⅳ Ⅱの《問題》の実態やⅢの《仮説》を確かめる方法を考える。

#### 《問題》の調査方法

※ 《仮説》はある「事実」の原因や法則を説明するものです。説明する「事実」が事実でなかったら、あるいは、事実ではなく単なる個人の意見であったら、《仮説》としてはまずいわけです。事実としての実態を確実に調べるための手だてを考えましょう。（そのためのリンク集も用意しています。）

「事実」は客観的なもので、誰が調べても同じ結果になるものです。それに対して、「意見」はある個人による評価や価値判断を含むものです。

事実	ジョージ・ワシントン	はアメリカの初代大統領だ。
意見	ジョージ・ワシントン	は偉大な大統領だ。

※ インターネットを利用する場合は、そのデータが信頼できるデータか、どうか注意しましょう。特に Wikipedia などの記事で、編者の主観的な評価や価値判断が含まれている場合は、資料としての価値はゼロになります。

※ 統計データや先行研究について調べるときは「予備調査のためのリンク集」を是非活用しましょう。

#### 《仮説》の検証方法

※ 他の《仮説》も考えられる場合は、どんな条件であれば自分たちが考えた《仮説》の方に確実性があるといえるのかを考えて条件を設定します。

※ 《仮説》に影響する他の要因を考慮しながら、具体的な検証方法を考えます。

※ アンケート調査を実施する場合は、質問項目を考えていくだけでなく、具体的な調査対象をどうするか、サンプルに偏りが生じないように（あるいは、調査対象を最初から絞り込んで）考えていきます。

※ 統計データを利用するときは「予備調査のためのリンク集」を是非活用しましょう。